

ホープツーリズム × SDGs

「複合災害（地震・津波・原子力災害）」を経験した唯一の場所。 複合災害の教訓等から、「持続可能な社会・地域づくりを探究・創造する」 福島オンリーワンの教育旅行プログラム

ホープツーリズムとは、震災・原子力災害を「福島だけのローカルな問題（他人事）」と限定化せずに、「持続可能な社会・地域づくりの実現（自分事）」として、教訓等を“これからの未来”へ活かすために視野を広げる学びのプログラムです。
アクティブラーニングの手法を用いた「主体的・対話的で深い学び」を実現。福島を学ぶことで感じる希望は、生徒一人ひとりに、これからの成長につながる「学びの種」をもたらし、「明日の学びに向かう原動力」を育みます。福島の「あの日」から今までの歩みを体感して“これからの未来”を考える学びの旅です。



ホープツーリズム 3つの特徴

光も、影も。報道だけでは分からない
福島の「今」を

見る

施設見学、フィールドワークから
ありのままの姿を体感

復興に向け確かに歩み出している地域、持続可能な未来を担う新しい取り組みが始まっています。一方、長年の避難指示による地域への影響を感じる街並み、避難指示が継続中の地域……。報道だけでは伝わらない「光と影」。その光景が「福島の今」です。

挑戦を続ける人々。
福島の「想い」を

聞く

様々な立場・分野で復興に“挑戦”
する人々(ヒューマン)との“対話”

困難の中で、それでもなお前へ進もうと挑戦する人々が、たくさんいます。そうした人々をホープツーリズムでは「ヒューマン」と呼んでいます。
挑戦を続けるヒューマンたちとの対話から多くの刺激や気づきを得ることができます。

福島の問題を
「他人事」から「自分事」へ

考える

震災・原発事故の教訓を未来(社会・
地域・日常・自分自身)にどう活かすか

まとめのワークショップでは、震災・原発事故により顕在化した様々な社会課題(人口減、高齢化、地域の衰退、エネルギー問題等)は「福島だけの問題」ではなく「日本社会や地域が抱え、解決すべき問題」という視点に立ち、自分たちがどのような未来を創っていききたいかなどについて議論します。

MODEL COURSE - モデルコース -

持続可能な循環型社会に向けた新しい取り組みを体感!



すべての物事(産業)は、
自らの生活やこれからの社会や環境に
つながっているという視点を育む。

SDGsの視点から震災・原子力災害の教訓、復興を捉え、持続可能な社会のあり方を考えます。SDGsの視点(17目標)を活用し、社会課題と日常生活との関連性を理解するだけでなく、社会の一員として、持続可能な社会をつくるために必要な視点や目標、自分たちの行動について、学びを自分事化します。

- | | |
|---------|--|
| 1
日目 | 見る 【川内村】かわうちワイナリー
見る 【田村市】ホップジャパン
聞く 【住民】浪江町商工会議所青年部 前司部長との対話
考える 1日目の振り返り
宿泊 【浪江町】ホテル双葉の杜 |
| 2
日目 | 見る 【双葉町】東日本大震災・原子力災害伝承館
見る 【双葉町・浪江町】フィールドワーク (JR双葉駅、大平山霊園)
見る 【浪江町】震災遺構 浪江町立請戸小学校
聞く 【原発・廃炉】東京電力社員との対話
見る 国道6号(一部帰還困難区域)通過
見る 【楢葉町】笑ふるタウンならば(コンパクトタウン)
聞く 【地域づくり】(一社)ならばみらい 平山係長との対話 テーマディスカッション
考える 2日目の振り返り
宿泊 【富岡町】ホテル蓬人館 |
| 3
日目 | 見る 【楢葉町】Jヴィレッジ
聞く 【農業】(株)ワンダーファーム 元木社長との対話
見る 【いわき市】いわき・ら・ら・ミュウ
考える まとめのワークショップ |

学びのポイント

- 震災後の新規農業事業のSDGsの取り組みを知る
- 避難指示解除後の地域づくりの現状を知る
- 農業と地域づくりの関連性を考える
- それぞれの取り組みの中で人々がどのような想いや熱意を持って活動を続けているのかを感じる

震災後、津波や避難指示による耕作放棄地の増加や風評被害の影響で、離農や担い手不足問題が加速した福島県。
地域の主要産業であった農業の再生は、新しいビジネスモデルの確立と雇用の促進だけではなく、農家のやりがい創出、さらには環境や資源の問題解決に向けた取組の活性化にもつながっています。
この正のサイクルは、まさにSDGsで掲げる循環的で持続可能な構造そのもの。農業や地域づくりのテーマから多方面の問題の解決のヒントを得られる、それがホープツーリズムのSDGs学習です。

ホップジャパン

詳細は裏面へ▶コンテンツ③

ホップとビールを使った循環型社会の実現について説明。産業としての確立や生産性の追求だけではなく、それらを取り巻く人々のやりがいや喜び、交流の場をつくるなど、包括的にSDGsの実施に取り組んでいます。

東日本大震災・原子力災害伝承館

詳細は裏面へ▶コンテンツ①

地震・津波・原子力災害後の地域の状況、長期的かつ広域の住民避難、放射線による県民生活への影響など、数多くの資料が展示されています。2011年3月11日以降の出来事を時系列で振り返ることで、基本情報をインプットします。

笑ふるタウンならば(コンパクトタウン)
+
地域づくりに関するテーマディスカッション

詳細は裏面へ▶コンテンツ②

住民の意見をまとめて設計された「みんなの交流館」はCANvasを中心に、公営復興住宅地を巡り、コンパクトシティの構造(インフラ・医療福祉施設等)を見学。さらにテーマディスカッションでは、アイデアを出し合っただけでこの先の安定した地域づくりについて議論します。

ホープツーリズム

つながり

SDGs

ホープツーリズムの学びやフィールドの中には、SDGsについて理解を深め、持続可能な社会・地域づくりの実現のために考えるきっかけとなるコンテンツがたくさんあります。

震災と原子力災害からの再生の中で重要視されるのは「誰ひとり取り残さない」こと。まさにSDGsにつながる視点が、このフィールドには根付いています。その教訓や人々の想いに触れることで、これからの未来のために自分にできることを考える旅。ホープツーリズムは、「自分事」への第一歩を踏み出すきっかけや発見を促します。



1 双葉町 東日本大震災・原子力災害伝承館

一般研修(見学・語り部対話・フィールドワーク・ワークショップなど)

展示見学やフィールドワークを通して、福島県で起きた未曾有の複合災害の事実や復興の現状・課題を見て感じ、学ぶことができます。さらにワークショップでは学びを整理・共有し、自分の住む地域や社会全体の課題解決へつなげようと考え、学びを「他人事」から「自分事」へと深めることができます。



- カテゴリ 見る 聞く 考える
- 17のゴール 9 産業と技術革新の基盤を作ろう 12 つくる責任を担う
- 受入人数 20名～240名
- 受入時間 9:00～17:00(通年)
- 所要時間 ガイダンス:15分 展示見学:60分 語り部対話:40分 フィールドワーク:60分 ワorkshop:60分
- 費用 選択する内容により変動
- 定休日 火曜日
- 連絡先 TEL:0240-23-4402

2 楡葉町 笑ふるタウンならは

コンパクトタウン フィールドワーク

2015年9月に避難指示が解除された楡葉町の復興拠点。商業施設・交流施設、災害公営住宅や診療所などの様々な生活機能を集約したコンパクトタウンをガイドが案内します。地域コミュニティの再構築・交流の中心となる「みんなの交流館」ならはCANvasは「町民の想い」をもとに設計され、避難指示解除後の地域を「みんなで主体的に創っていく」という意志が込められています。



- カテゴリ 見る 聞く
- 17のゴール 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任を担う
- 受入人数 20名～60名
- 受入時間 9:00～17:00(通年)
- 費用 ガイダンス15,000円
- 所要時間 60分
- ①笑みふるタウンならはの徒歩案内:40分 ②ならはCANvas内:20分
- 定休日 第2・第4火曜日、年末年始
- 連絡先 TEL:0240-25-5670



一般社団法人 NoMA ラボ 代表理事 高橋大就さん

浜通りのまちづくりと社会課題解決型ビジネスづくりに取り組む「NoMAラボ」を立ち上げ、2020年に法人化。2021年に浪江町に居住を移して浜通りでの活動を本格開始。地域の生産者にスポットをあてたPRを続けています。



株式会社 麒麟酒造店 代表取締役 鈴木大介さん

津波により酒蔵を流失し、原子力災害による避難を余儀なくされながらも、避難先の山形県で酒蔵を再開。町産の米を使用した酒造りで浪江町の今を発信し続けています。2021年には道の駅なみえに醸造所を開設。10年ぶりにふるさとの酒造りを果たしました。

掲載以外のコンテンツでも SDGs と組み合わせた学習が可能です！

3 田村市 ホップジャパン

ビール工場・圃場見学

1次産業から3次産業を一貫して行うことで6次化、更に廃棄される材料を自然に戻す0次化に挑戦中。「人」「もの」「こと」を循環させる仕組みをホップとビールを使って構築することを目指し活動しています。



- カテゴリ 見る
- 17のゴール 12 つくる責任を担う 15 陸の豊かさも守ろう
- 受入人数 5名～30名
- 受入時間 9:00～17:00(通年)
- 所要時間 40分
- 費用 無料
- 定休日 なし
- 連絡先 TEL:0247-61-5330

4 広野町 トロピカルフルーツミュージアム

バナナ・コーヒー栽培畑の見学

1震災・原発事故からの農業・地域再生に向けた、国産バナナ「綺麗」の栽培に挑戦。熱帯性の作物を東北の地で栽培、収穫するという挑戦を通して住民に希望を与え、温州ミカン栽培の北限地として知られる広野町の新たな特産品に育てることが目標です。



- カテゴリ 見る 聞く
- 17のゴール 12 つくる責任を担う 15 陸の豊かさも守ろう
- 受入人数 1グループ40名の入替制
- 受入時間 9:00～16:00(通年)
- 所要時間 30分(+30分対話可能)
- 費用 無料
- 定休日 月曜日(祝日の場合は営業)
- 連絡先 TEL:0240-23-7704

5 富岡町 特定廃棄物埋立情報館 リプルンふくしま

展示見学・環境モニタリング測定

放射線物質に汚染された廃棄物の種類や埋立処分の流れについて学ぶだけでなく、空間線量の測定体験、水質調査体験、特定廃棄物埋立処分施設の見学を通して、放射線物質の環境への影響や、環境上適正な廃棄物の管理について学ぶことができます。



- カテゴリ 見る
- 17のゴール 3 すべての人に健康と福祉を 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任を担う
- 受入人数 1名～90名
- 受入時間 9:00～17:00(通年)
- 所要時間 30分～60分
- 費用 無料
- 定休日 月曜日(祝日の場合は翌平日が休日)
- 連絡先 TEL:0240-23-7781

6 大熊町 ネクサスファームおおくま

いちご栽培ハウスの施設見学

大熊町に2018年に設立。栽培面積2.2haの太陽光利用型植物工場ではいちご栽培・販売をしています。2019年にはGLOBAL G.A.Pの認証も取得し農業の再生に挑戦しています。



- カテゴリ 見る
- 17のゴール 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤を作ろう 11 住み続けられるまちづくりを
- 受入人数 1名～90名
- 受入時間 9:00～17:00(通年)
- 所要時間 30分～60分
- 費用 要問合せ
- 定休日 要問合せ
- 連絡先 TEL:0240-23-7671

7 楡葉町 (株)福島しろはとファーム

さつまいも苗植え体験・さつまいも収穫体験

東日本大震災と原子力災害により生じた耕作放棄地の活用を目指して設立した「福島しろはとファーム」でさつまいも苗植えや収穫を体験。農業を通して、震災と原子力災害の影響やそれからの復興について学びます。また、事業説明(SDGsへの取り組みを説明)、工場見学(日本最大級のさつまいも貯蔵施設を見学)、畑作業(苗植えや収穫を体験する)を通して、持続可能な農業のあり方について考えることができます。



- カテゴリ 見る 聞く 体験
- 17のゴール 2 飢餓をゼロに 15 陸の豊かさも守ろう
- 受入人数 10名～60名
- 受入時間 10:00～16:00(4月～11月)
- 所要時間 60分～90分 事業説明:20分 工場見学:10分 畑作業:30分～60分
- 費用 要問合せ(季節、人数により変動)
- 定休日 要問合せ(季節、人数により変動)
- 連絡先 fukushimafarmer@shirohato.com

8 浪江町 なみえ星降る農園

畑見学・農作業(肥料まき)体験

浪江町の農業者と東北のヒーロー生産者、住民、東北の食のファンと一緒に、様々な農作物を実験的に栽培していくコミュニティ実験農場です。この地域や日本で栽培されてこなかった農作物を実験的に栽培し、この土地の気候や土壌に合い、名産品となる可能性のある作物を探求します。また、実験的な肥料の活用や、アグリテックの活用など、さまざまなチャレンジを行っていく予定です。



- カテゴリ 見る 聞く 体験
- 17のゴール 2 飢餓をゼロに 8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう
- 受入人数 10名～40名
- 受入時間 10:00～15:00(4月～10月)
- 所要時間 40分 事業説明:15分 畑見学・作業:25分
- 費用 要問合せ(季節、人数により変動)
- 定休日 要問合せ(季節、人数により変動)
- 連絡先 info@higashi-no-shoku-no-kai.jp

9 相馬市 松川浦特選エコツアー

磯カニ釣り・ナイトフィッシュキャッチ

「松川浦特選エコツアー」は、環境復興エコツーリズム推進モデル事業で開発したものをベースに、地元松川浦のガイドたちが、企画・実施しています。ツアープログラムは、「松川浦ならではの」にこだわった地元の自然や文化がテーマ。津波で甚大な被害を受けた相馬市で海の復興や豊かさに触れるコンテンツが体験できます。

※季節によって催行するプログラムに変動がございますので、事前にお問い合わせください。



- カテゴリ 体験
- 17のゴール 16 海の豊かさを守ろう
- 受入人数 5名～60名
- 受入時間 ①磯カニ釣り 10:00～15:00(6月～11月) ②ナイトフィッシュキャッチ 19:00～21:00(7月～9月)
- 所要時間 60分～90分
- 費用 参加料500円～800円
- 定休日 要問合せ(季節、人数により変動)
- 連絡先 TEL:0244-35-3300